

はじめに

コンピュータシステム・シンポジウム(Computer System Symposium、ComSys)は、情報処理学会「システムソフトウェアとオペレーティングシステム」研究会(SIGOS)が主催するシンポジウムです。今年は、法政大学において開催されます。1987年に第1回コンピュータシステム・シンポジウムが開催され、システムソフトウェア分野の最新の研究成果が集まる機会として今回で第28回を数えます。本シンポジウムは、OSを中心に分散処理、並列処理、オブジェクト指向を経て、仮想化、クラウドコンピューティング、ディペンダブルコンピューティング、セキュリティとその基盤ソフトウェアなどを題材として、OS やシステムソフトウェアの最先端の話題を取上げ、時代の流行を先取りした研究テーマを議論してきました。

今回は前年度まで開催していた研究会をComSysに取り込み、新たなコメントフィードバック制度を設けました。また、翌日には BitVisor Summit5を開催する日程となっています。システムソフトウェアの研究者、また日本発の仮想マシンモニタである BitVisor の開発者、BitVisor を題材として研究を展開している研究者との議論を通じて、お互いのコミュニティ自身を活性化させる起爆剤となることを期待しております。

ComSys 2016 のコメントフィードバックは、前年同様、投稿いただいた論文は全て発表していただく上に、投稿者自身がどのようなコメントが欲しいかをリクエスト可能な形式としました。いただいたリクエストを元に、OSコミュニティの研究者を中心としたレビューアが投稿いただいた論文に対してコメントを著者に送るという仕組みになっています。著名な国際会議や海外論文誌へ投稿、研究の位置づけの明快化など、推進している研究をステップアップさせる場としてComSysを利用していただくことが狙いです。今回は18本の論文が投稿され、内容は仮想化やインメモリ処理など先端的な話題になっており、当日の発表では深い議論を行えればと考えております。また、例年好評のポスター発表も実施いたします。招待講演には、理化学研究所より庄司文由氏と三好建正氏、また株式会社NTTデータより猿田浩輔氏をお招きし、京コンピュータの運用、データ同化による最先端の研究成果、著名な分散フレームワークであるSparkに関するご講演をいただきます。また、システム分野の主要会議である OSDI '16 の報告を東京農工大学の山田浩史氏が行います。

OSやシステムソフトウェア分野の発展は、新たなアプリケーションを産み出し、新しいハードウェアプラットフォームを活かしていくという意味で、大きな社会的使命を担っております。本シンポジウムから次の時代のOSやシステムソフトウェアを生み出せればと考えております。また、システムソフトウェアの研究開発、産学連携、人材発掘と育成、人的交流などを今後も推進していければと考えております。今後とも本研究会およびシンポジウムがさらに発展するよう、今後とも皆様のご支援・ご協力を賜れば幸いです。

2016年11月
第28回コンピュータシステム・シンポジウム 運営委員長
廣津 登志夫 (法政大学)
第28回コンピュータシステム・シンポジウム 幹事
山田 浩史 (東京農工大学)